

第 17 回伊勢・三河湾の環境と漁業を考える

「海の変化と水産資源の応答～人の手で対応できることは何か?～」

日時：2022 年 11 月 26 日（土）13:00～17:30（受付 12:30～）

会場：愛知県西三河総合庁舎 10 階大会議室（愛知県岡崎市明大寺本町 1-4）

コンビーナー：日比野学・曾根亮太・和久光靖（愛知水試）・羽生和弘・岩出将英・館 洋（三重水研）

共催：愛知県水産試験場，三重県水産研究所

後援：愛知県漁業協同組合連合会，三重県漁業協同組合連合会

挨拶 木村伸吾（一般社団法人水産海洋学会会長） 13:00～13:05  
趣旨説明 日比野学（愛知水試） 13:05～13:15

【基調講演】

「水産資源と栄養塩類の関連について」 13:15～14:00  
藤原建紀（京都大学名誉教授，いであ株式会社）

【事例発表】

座長 羽生和弘（三重水研）  
1 伊勢・三河湾における年代別栄養塩類と対応 14:00～14:30  
柘植朝太郎・加藤毅士（愛知水試）  
2 伊勢湾西岸漁場におけるノリ養殖 14:30～15:00  
岩出将英（三重水研）

（休憩）

座長 和久光靖（愛知水試）  
3 内湾域における生態系構造の変化 15:10～15:40  
曾根亮太（愛知水試）  
4 三河湾のアサリにみる個体群の変化 15:40～16:10  
日比野学・村田将之（愛知水試）  
5 貧栄養は資源減少要因？瀬戸内海のクルマエビを例に 16:10～16:40  
佐藤 琢（水産機構技術研）

【総合討論】 16:40～17:20

進行 曾根亮太・和久光靖（愛知水試）

開催趣旨：伊勢・三河湾では，栄養塩濃度やクロロフィル *a* 量等の長期的な減少が確認され，海域の基礎生産力の低下が指摘されている．基礎生産力の低下は，近年の水産資源の減少とも密接に関連していると考えられ，漁業者の関心も高い．今回の研究集会では，近年の基礎生産力の低下を伴う沿岸環境の変化に対する水産資源の応答について，他海域での研究事例も含め，生態系構造から個体群レベルまで概観することにより，漁業生産における問題点について共通理解を深めたい．また，水産資源変動に与える基礎生産力の影響を評価した上で，現在の生産構造の中で，資源管理や漁場管理，環境管理等，人為的な対応・制御の有効性について整理するとともに，今後の豊かな伊勢・三河湾漁場の復元のために今対応すべきことを，様々な角度から議論したい．